

1982年度事務分科・構内運転分科委員会開かる



83, 3, 26
No. 1299

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五〇六・公衆電話(22)七二〇七

激闘

動労千葉は、三月十八日に事務分科委員会、十九日に構内運転分科委員会を開催し、分科会の独自活動強化と活発化を勝ちとり、中江選挙闘争をはじめとする当面の取り組みを全力で闘うことを確認しました。

激闘

構内運転分科委員会

独自活動の強化を勝ちとろう

構内運転分科会定期委員会は、三月十日十時から動力車会館に於いて開催されました。

島田会長は「今日の定期委員会は国鉄労働運動解体攻撃を粉碎し、3・27三里塚に向けて構内運転分科が大きく結集していく場として成功させた。58・Xの貨物大合理化反対の闘いは構内運転の存在をかけた闘いとならざるを得ず、本部と連携を密に総力で闘おう。さらにどうしても敗けられない闘いとして、三里塚・中江選挙闘争に勝利しよう」とあいさつしました。

つづいて、本部を代表して関川委員長は、今日の国鉄労働運動解体攻撃の本質と動労革マルの裏切りを暴露するとともに、こうした反動攻勢に抗する闘いとしての中江選挙闘争の意義を訴えました。さらに今回の反対同盟をめぐる事態が、敵の総力をあげた攻撃に動揺した部分による脱落であり、動労千葉は「農地死守・実力闘争」を貫徹する敷地内農民と連帯して闘う方針を明らかにしました。

結束を固めて闘い抜くことを確認

討議のなかでは、①千葉局における貨物輸送の展望、とりわけ新小岩ヤードがどうなるか。②定数の張付基準について。③基本給調整額の獲得。④検修外注化に伴う構内作業へのはね返り問題。⑤被服をはじめとする待遇改善要求など、多くの意見が出されました。最後に、分科としての独自活動の強化をはかり、当面分科会要求をまとめ局交渉を中心に結束を固め闘い抜くことを確認して終了しました。

三役体制は次のとおりです。

会長	島田 益・雄 (新小岩)
副会長	安田 喜夫 (館山)
事務長	成毛 正・克 (幕張)

事務分科委員会

活発な討論を展開し三役体制を確立

三月十八日、動労千葉事務分科会は、82年度定

期委員会を20名の参加のもと開催し、たまたかう方針と新役員体制を確立しました。

委員会は、三代川氏(津田沼)を議長に選出し始められ、冒頭関川本部委員長から挨拶をうけ「事務分科35名は動労千葉一三〇〇の最先頭でたたかっつてほしい、3・27三里塚には全力で結集するよう要請します」と熱烈に訴えました。

つづいて斉藤(功)事務分科会長(千転)が発言にたち、「事務分科は数こそ多くはないが、団結してがんばろう」とアピールをしました。

つづいて議題に入り、布施交渉部長より今回の事務係合理化粉碎闘争に関する集約説明と今後の展望・たたかう方向性についての問題提起をうけました。これをうけて各支部よりの積極的な発言と討論がくりひろげられました。

最後に以下のとおり新三役体制を決定し、全参加者の「団結ガンパロー」で終了しました。

会長	斉藤 功 (千葉転)
副会長	三代川 学 (津田沼)
"	清水 匠 (新小岩)
事務長	大鐘 和夫 (千葉転)



3・18事務分科委員会であいさつする関川委員長

明日 3・27 三里塚へ